



知られざる

ランチェスター先生の経歴

【マル秘メルマガ】より

22 通目

◆自社の工場を持つ

この時期になると実験的な仕事が多くなり、もっと広い作業場が必要になったので、バーミンガムのファイブ・ウェイス・レディウッド通りの土地を手に入れた。

私は 1897 年の初めに T・B・バーカー氏の会社を辞めて、兄フレデリックの新しい仕事のアシスタントになった。

私の仕事は 8～10 人の職人達の面倒を見ることであり、仕事の進み具合を監督することであった。

そうすることによって、兄にもっとこれから先のことに関して計画を立ててもらい、また空気力学の研究も続けてもらいたかったからである。

新しい工場で仕事を始め、最初に作り出した車は 1895 年、最初に作ったシャシーを改造して 2 シリンダーの、空冷 8 馬力のエンジンを取りつけた。

さらにトランスミッションも同時に新しい方法で作り直した。

新型エンジンは今迄にないたくさんの特徴をもっていた。

それはコンポーネントの往復運動や回転、それにトルク反応のバランスがよくとれていた。

また、低圧力磁気点火とよくあっていた。

頑丈なマグネットは固定された防護器のまわりを、回転するはずみ車に固定されていた。

新しいタイプの低電圧スパークプラグには、電流の通る回路が 2 つあった。

最終的にはシリンダーの中のスパークギャップを通して、全ての電気の流れを変えるようになっており内部接触が起る寸前に外部接触が起るようになっていた。

機械的に操作する“ヒットとミス”タイプの整圧器をはめ込みスイッチを操作するようになっていた。

2 対 1 の装置は、ギヤーを使わずにコントロールできるようになっていた。

車を改造するには大体 2～3 ヶ月かかる。その間の作業工程としては、最初の車にとりつけたのと同じ車体に新しいエンジンとトランスミッション装置と動輪にローラーベアリングを取りつけた。

市販ベアリングの精度はあまり信頼できるものではなかったもので、ベアリングに関しては何年か自分達自身で作らなければならなかった。

これらは長円筒形で各々直径の長さは同じであった。これは当時としては目新しかったが、後年になると“ボール・ベアリング”はごく普通のものとなった。

最初の車として台車と車体フレームは鉄製の角パイプで作った。

台車は S. W. G 規格 (Standard Weight Gauge) の 2 インチ×16 の寸法であり、車体は同じ 1 インチ×20 の寸法であった。

改良型の車は 1898 年の春に完成した (29 歳の時)。

この車は1899年のリッチモンドで開かれた自動車展示会に出展したが、デザインと機械製作に関して特別ゴールドメダル賞を授与された。

1898年、今度は、モーターボートに取り付けるために水冷式で、前と同じようなエンジンを作った。

兄がデザインし、チューカスベリーのバサーストが作ったボートは、新しいデザインの2面型のプロペラとうまくマッチした。

このボートは1898年のクリスマスに処女航海をした。(30歳の時)

1898年に作った2台目の車は、四頭立馬車のボディとうまくマッチした。これは、ゴールドメダル受賞の車とほぼ同じものであった。

車の製造を行なうに当たり、必要にせまられて未経験な馬車製造者を雇うという事は仕方のないことだった。

これには多くの失敗がつきまどったが、最終的には車体のコンポーネントはゴールドメダルカーのスペアパーツとして使われた。

実験的に作られたランチェスターカーや、販売するためにデザインされた車はアルミ製の軽合金が使われた。

冷却器やシリンダージャケット、クランクケースカバー、クランクシャフトのギヤボックス。ウォームギヤボックス、キャブレター、オイルポンプ等は全て軽合金で、その他コンポーネントや車台と車体の接合部分にも使われた。

◆ 1899年12月自動車製造会社を創業

1898年から1899年の間、兄は10馬力、空冷で2シリンダーの車を設計した。

これは1900年に一般に販売するために製造された最初の車になった。

兄は車を商業生産するために、1899年12月(31歳の時)にランチェスターエンジン・ガス会社を創業して社長になった。

本社はバーミングハム郊外のスパークブルクに置かれた。

時代に応じてあちこちに工場が作られたが、本社の工場は1931年まで、主力工場として残った。

ゴールドメダルを受賞した車を改造して作った空冷10馬力の車は、兄の才能を物語る素晴らしい出来ばえであった。

まさにユニークで、数年間はどこの国で作られるどの車よりも進歩していた。当時、アメリカではまだ自動車製造に関して余り興味を示していなかった。

10馬力車には素晴らしい特徴がたくさんあったので、他の車製造業者達がこぞってまねをするようになった。

(続く)

Lanchester ランチェスター経営(株)



〒810-0012 福岡市中央区白金1-1-8 チュリス薬院301

TEL 092-535-3311 FAX 092-535-3200

メールアドレス customer@lanchest.co.jp HP <https://www.lanchest.com>